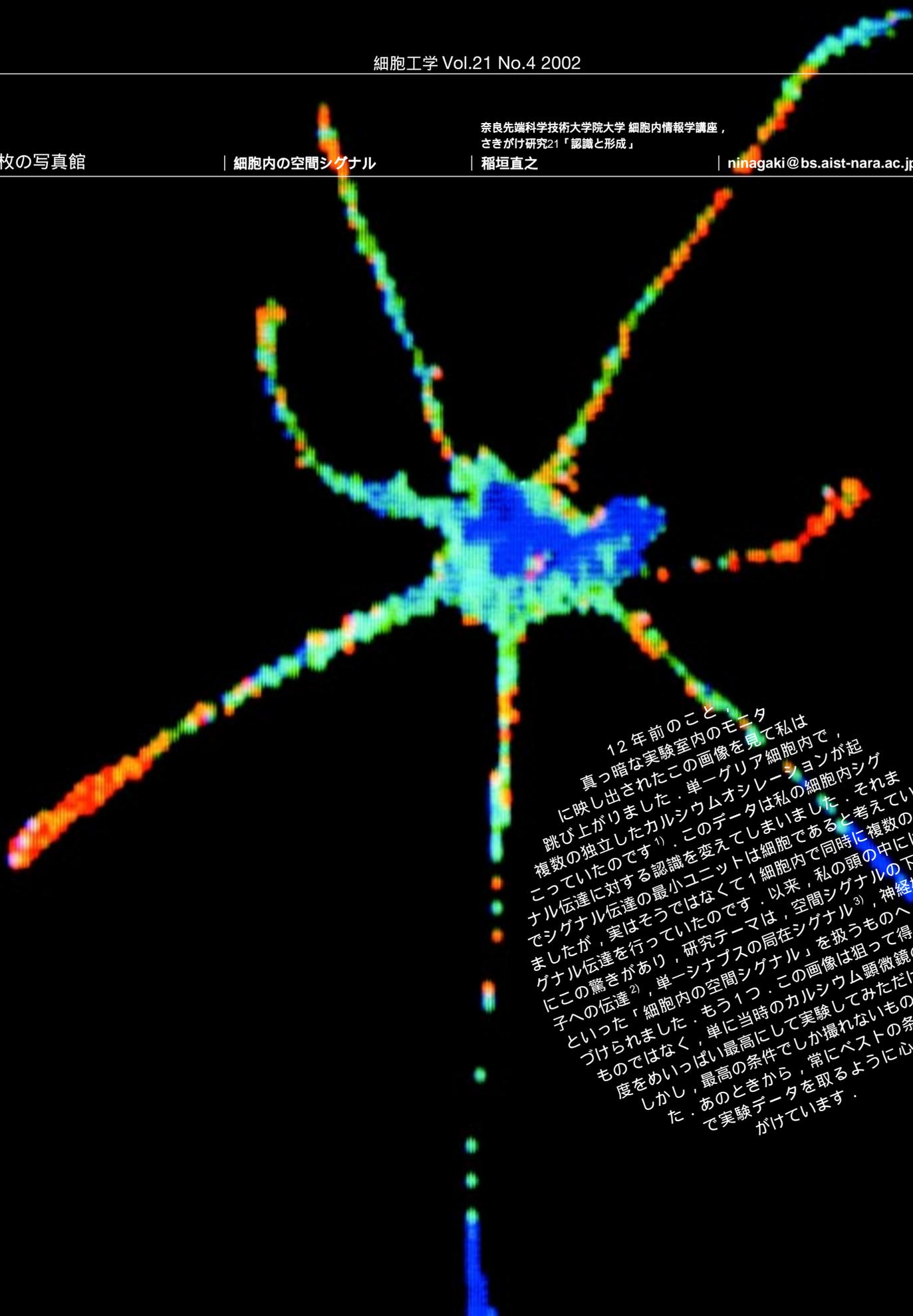


| 1枚の写真館

| 細胞内の空間シグナル

奈良先端科学技術大学院大学 細胞内情報学講座,
さきがけ研究21「認識と形成」
稲垣直之

| ninagaki@bs.aist-nara.ac.jp |



12年前のこと、真っ暗な実験室内のモニターに映し出されたこの画像を見て私は跳び上がりました。単一グリア細胞内で、複数の独立したカルシウムオシレーションが起こっていたのです¹⁾。このデータは私の細胞内シグナル伝達に対する認識を変えてしまいました。それまでシグナル伝達の最小ユニットは細胞内で同時に複数のシグナル伝達を行っていたのです。以来、私の頭の中には常にこの驚きがあり、研究テーマは、空間シグナル²⁾、神経極性³⁾といった「細胞内の空間シグナル」を扱うものへと方向づけられました。もう一つ、この画像は狙って得られたものではなく、単に当時のカルシウム顕微鏡の解像度をめいっぱい最高にして実験してみただけでした。しかし、最高の条件でしか撮れないものでした。あのときから、常にベストの条件で実験データを取るように心がけています。